

第43号

こうろく

～晃麓～

発行所: 栃木県日光市板橋2610-1

社会福祉法人 すぎなみき会

発行責任者 理事長 峯山 敏正

令和3年3月10日発行

Tel: 0288-27-3100 Fax: 0288-27-3700

E-mail: sugigaku@hyper.ocn.ne.jp

URL: <http://www.suginamikikai.jp>



目次

令和2年度版

思い出アルバム

特集編…2

施設長だより・

副施設長コラム…5

みつみね通信 …6

梅の実・梅のはな通信 …7

すぎなみきトピックス …8



令和2年度版 おもいであるばむ

思い出アルバム 特集編

コロナ禍の中、今まで中止が多かった行事ですが、感染予防に最善を尽くし、出来る限り利用者様に楽しい時間を過ごしていただこうと幾つかの行事を開催する事が出来ました。久しぶりの思い出アルバムです。



第一回すぎなみき学園三一運動会



理事長挨拶



紅白に分かれて待機。ドキドキ～



第一種目玉入れ。逃げる～！！



堂々と選手宣誓！



呼吸を合わせて♪

第二種目二人三脚



みんなで声援を送りました



第三種目ボール運び。慎重に慎重に



最後は皆でパブリカ。お疲れ様でした！



雄姿！

第四種目対抗リレー。代表者の



10月18日、すぎなみきタウンの運動場にて、入所とGHの利用者様で行われました。赤と白で分かれてゲーム開始！選手宣誓から始まり、最初の競技は玉入れです。逃げ惑う職員が持っているカゴにボールを投げ入れていきました。続いては、「機関車トーマス」や新幹線などをかたどった段ボールに、二人で入って走る二人三脚。皆さん真剣な顔が印象的。次の競技は二人一組で二つの棒を持ってボールを挟み、落とさず走っていくボール運び。落とさないよう慎重に、かつ素早く運んでいました。そして最後のクライマックスは、代表の利用者様と職員で赤白対抗リレー。お互いに本気を出し、元気な声援も飛んでいました。リハビリ班の皆さんも一生懸命応援をしてくださいました。最後にみんなで「パブリカ」に合わせて楽しくダンスをしました。このダンスもこの日のために一生懸命練習してきたものです。結果は赤37点、白28点で赤組の勝ちとなりました！皆さん一生懸命頑張りました！



ハロウィン会

10月30日、学園にてハロウィン会が開催されました。仮装では、「じよなの」の「トロ」をテーマに、「トロやまっくろくろすけ」等、映画でお馴染みのキャラクターの仮装をし、映画のワンシーンを背景に写真撮影をして楽しみました。アトラクションでは、職員による寸劇「金のオノ銀のオノ」等を鑑賞したり、ハロウィンにちなんで「おぼけなんてないさ」を歌ったりして楽しみました。職員の迫真の演技に、皆真剣に見入り、楽しんで鑑賞していました。



12月の11日と25日に学園にてリモートでの音楽クラブが開催されました。リモートでの開催は今回が初!!ホールのテレビをパソコンとつないで行われました。職員も音楽クラブでお世話になっている大嶋先生もどんな感じになるのか少し不安でしたが、皆テレビの画面を見ながら季節の歌やリクエスト曲を大熱唱。約5カ月ぶりの開催にみんなとても嬉しそうでした。これからもコロナが落ち着くまではリモートでの開催となりそうです!



音楽クラブ



もちつき会

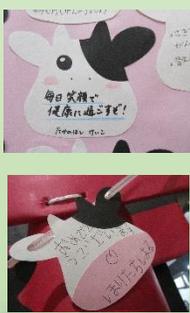
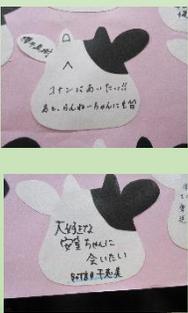
12月28日、学園にてもちつき会が開催されました。前日の夜雨が降っていましたが、当日は見事に快晴!無事開催することができました。男性職員が交代でおもちをつき、利用者様は声援を送ってくれました。おかげで美味しいおもちができあがり、昼食で「からみもち」と「あんころもち」にして提供されました。来年も楽しみですね♪



新年会&成人を祝う会



岡畑桜乃香さん、片桐慧実さん、小池雄斗さん、高山海斗さんの4名が新成人となりました。1月13日に行われた新年会はコロナウイルス感染拡大の為、新成人の撮影のみを行い、昼食時にみんなでのお祝い、記念品の贈呈をしました。各自用意したスーツやドレスを身に付け、格好いいポーズを取ってくださいました。また、牛の形をしたカードに今年の抱負や願い事を書き、職員の手作りの鳥居に飾りました。健康を願ったり、今年頑張りたい事、ユニークなお祝い事など様々な事が書かれており、コロナウイルス感染拡大で帰省が出来ない中、お互いのカードを見て楽しんでいらっしかったです。



節分

今年の節分は2月2日でした。うるつ年と同じように何年かに一度立春の日がずれるそうです。その間なんと124年！会はずれませんが、施設内を飾り立て、記念写真を撮影し、時節の移り変わりを感じる事ができました。



味噌作り

毎年開催されている味噌作り会ですが、今年は残念ながら職員のみでの作業となりました。おいしいお味噌が今年も出来るのが楽しみです。来年は是非とも皆で楽しみたいですね。



タウンズの日常

行事ではありませんが、コロナ禍により生活導線を分けるという事で、1月12日より通所の利用者様はすぎなみタウンご利用となっております。今までの学園生活と違い、変化に戸惑う利用者様もいらっしゃる事でしょうし、今後状況によりどのようになっっていくかは未定です(3月10日現在)。ご不便おかけ致しますが誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解の上ご協力お願い致します。



施設長だより



「コロナ禍に思うこと」

社会福祉法人 すぎなみき会

理事長 峯山 敏正



日頃より当法人及び各施設への御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、世界で初めて新型コロナウイルスの発症が確認されたのは、2019年12月8日とされていますが、その後感染流行の勢いに衰えは見られず、新たに複数の「変異株」の感染も広がり始めました。一方、待ちに待った「ワクチン」の接種がスタートし、今までの「守り」から「攻め」に転じた感がありますが、まだまだ、不安な日々が続いているのが現状です。また、「コロナ禍」が長く続くことで私たちが今まで大切に育んできた伝統文化・生活様式等の多くが、変貌喪失していくのではないかと危惧いたしますが、私達は柔軟に、それらを受入れ乗り越えて、次代が安心・安全に暮らせる「新たな生活」を創出していけるものと信じております。

さて、令和3年度の国家予算について

現在国会で審議中ですが、国は『新型コロナウイルス感染症の影響により、内外経済を下振れさせるリスクに十分注意する必要がある中で雇用と事業を支えながら、新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するとともに、ポストコロナに向けた経済構造の転換・好循環の実現を図り、防災・減災、国土強靱化の推進など安全・安心の確保を進める』を基本的な考えとしています。社会保障費（年金、医療、介護、福祉等、雇用）は、国の一般会計予算の約1/3を占めますが、今後の動向を注視していきたいと思います。

ところで、私たちが避けては通れない大きな問題が間近に迫っていることを忘れてはいけません。それが『2022年危機』です。いわゆる1947年生まれを初めとした団塊の世代が2022年には後期高齢者である75歳になります。さらにその3年後の2025年には、団塊の世代全員が75歳以上となり、後期高齢者の人口全体に占める割合は18%にも達します。75歳以上になると、1人当たりの医療費や介護の費用が急増し持続可能な社会保障制度を作ることが、今後の最大の課題になると言われています。新型コロナウイルスの感染に目を奪われがちになりますが、この事実を目をそらすことはできません…。

まだまだ先が読めない日々が続きますが、皆様の「健勝とご自愛をお祈りいたします。

副施設長



「災害は「ちよくちよく」やってくる

すぎなみき学園

副施設長 井上 憲一



前号で災害は忘れたいところやってくるのではなく最近「災害はちよくちよくやってくる」と書きました。

現在、世界では未だ「新型コロナウイルス」の感染者が拡大しています。栃木県も一時、国の緊急事態宣言の「緊急事態措置区域」に追加され、その影響は飲食店を初め様々な業種にマイナスな影響を与えました。

福祉施設では志を同じくする仲間の施設で「クラスター」が発生し、その状況は（N）栃木県障害施設・事業協会事務局から発せられ、日々緊迫した現場の状況を知り心が痛みました。その後約1ヶ月で「終息宣言」が出された時には、すぎなみき学園の職員一同安堵いたしました。

新型コロナウイルスの「施設内感染拡大」も一つの「災害」と捉え、すぎなみき学園等はその災害に備え、その対策を

講じながらご利用者様に対して必要なサービスが継続的に提供できるよう、又は一時的にサービスが中断しても早期に再開できるように計画を策定しています。

令和3年度障害福祉サービス等報酬改定では3年間の準備期間を経て全サービスに計画の策定を「義務化」することとされています。当施設の計画も今後は研修や想定訓練を実施し、課題を把握し見直しを図り実効性のある計画にして行きたいと思えます。

末筆になりましたが、クラスターが発生した施設の職員の皆様の勇気に敬意を表すると共に、残念ながらお亡くなりになったご利用者様に心よりご冥福をお祈りいたします。





みつみねの郷・NOW!!

各種サービスのご紹介です⑥

みつみねの郷

施設長 高橋 勲



第5回目は「ケアプランセンターみつみねの郷」を紹介させていただきます。

正式なサービス種別は「居宅介護支援」と言い、平成23年4月にスタートいたしました。

ケアマネジャー（介護支援専門員）は、介護を必要とする方が介護保険サービスを受けられるように、ケアプラン（サービス計画書）の作成やサービス事業者との調整を行う介護保険に関するスペシャリストです。

「ケアプランセンターみつみねの郷」は、いわゆる「1人ケアマネ」の事業所で、寺尾地区の6町を事業実施地域としてサービスを提供しています。約30名のお客様のご担当をさせていただいております。なお、寺尾地区にケアマネジャーがいる事業所は、1か所だけです。

『1人ケアマネは忙しくて大変だ』と言われますが、実際はどうなのか？お話を伺ってみました…。

○寺尾地区は景色が美しいので、心が癒されます。

○寺尾地区にお住いの方々は、優しい方ばかりで、楽しく活動しています。

○皆様から「感謝」のお言葉をいただく時、本当に嬉しく思います。

とのことでした。

これからも、専門性を活かして「地域の皆様のお役に立つサービス」のご提供に努めていきます。

下半期の行事
の様子です



クリスマス会



お正月



敬老会



もちつき会



流しそうめん

梅の実信 のはな通信



共生型サービスの課題

梅の実・梅のはな

施設長 峯山直巳

現在、すぎなみき



会の栃木エリアでは、共生型サービス（生活介護 短期入所）を実施しています。

まだ、発展途上ではありますが徐々に利用する方が増えてきている状況です。

高齢者の施設利用を想定しており、最初の段階では、高齢障害者の利用が主でありました。現在では、高齢化した利用者だけではなく、

『高齢施設で作業することを目的とした方』

に対象を拡大し、運用している状況です。

対応する職員は、当初障害者ということに身構えている職員が多くみられていた印象でした。例を挙げますと

- ・必要以上に体を支える。
- ・疾病の面から利用者の特徴をつかもうとする。
- ・高齢者職員、障害者職員お互いが、重

要視するポイントにずれが生じ、コミュニケーションがうまくいってなかった。等、ちぐはぐな印象でした。

障害者支援と高齢者支援の違いは

高齢者 ↓ 身体介護が中心

障害者 ↓ 関係性を築く支援が中心

ということと考えます。中々この違いに気づけないのが、共生型サービスが広がらない理由だと思えます。

現在では、

・基本情報、フェイスシート等の情報の整理

・毎日、高齢職員と障害職員が、顔を合わせる機会を確保する。

・業務上の連絡と、利用者の連絡事項を分けて伝達する。

等を取り組み、徐々にうまく行き始めています。

今後は、共生型短期入所の利用が本格化します。お互いの支援方法の良いところと課題を理解し、取り組むことで事業所職員がさらにレベルアップしてくれることを期待しています。

コロナウィルス感染症については、終息に向けて一歩を踏み出した状態ですが、アフターコロナに向けた取り組みも必要と感じています。共生型サービスが、アフターコロナを象徴するサービスになることを期待し今後も取り組んでいきます。



岩下の新生姜ミュージアム



もちつき会

下半期の行事 の様子です



節分会

かわいい鬼でしょ！



すぎなみき トピックス

コロナ禍での学園生活

コロナによる外出自粛のため、この1年間今まで行ってきた様々な行事が中止となりました。学園においても同様でしたが、その中でも何とか皆様に楽しい思い出を残してあげたいとできる限りのイベントを開催してきました。特集で紹介させていただきましたが、ここではみんな大好き食事を中心にご紹介したいと思います。

11月3日の夕食にお寿司が提供されました。いつもと違う夕食に皆さんとても嬉しそうなお表情！まぐろやサーモン、えび、たまご、細巻き寿司があり、皆さん好きな順番に召し上がっていらつしやいました。

また別の日にはおやつとしてすぎなみきタウンにあるカルフル特製のシフォンケーキが登場！ふわふわの生地の間にはクリームがたくさんで好きなジュースと一緒に頂きました。

12月24日クリスマススイブには、すぎなみき会・利用者家族会様から苺の乗ったクリスマスケーキとシヤンメリーを利用者様お一人お一人にプレゼントされました。クリスマスケーキは学園内での楽しみの一つとなりました。

2月にはカルフルから、すぎなみキッズへバレンタインデーのプレゼント！アンパンマンのチョコパンがその日利用のお子様たちに配られました。いなかった子たち、ごめんなさい！

特別な食事イベントはおいしさだけでなく、1年間の時節の流れを実感する大事なものでもあります。外出が出来なく、季節の移ろいを感じづらくなってしまっているこのような時だからこそ、こういった楽しい食事は大事にしていきたいと思っております。



編集後記

今回は昨年からの大ヒットアニメ「鬼滅の刃」をデザインに取り入れてみました。何年か後に目を通してみたなら「あ～そういえばあの時こんな流行ったな～」と思い出し、流行とともに当時の事を思い出す手助けになればと思います。願わくばその時は「あの頃はコロナが流行ってみんな大変だったな～」と思い出話になってますように…。

広報誌担当

岩崎 大島(有) 大島(美) 出井 大貫



防疫用品

ご提供いただきました

栃木県・日光市・日本財団より

マスク、消毒用エタノール等

北関東警備保障株式会社様より

フエイスシールド

日産プリンス栃木販売株式会社様より

医療用ガウン

